

エッセイ Essay



夢は介護福祉士

介護職員初任者研修課程修了
災害時通訳・バイリンガルボランティア
小川・ニア・クルニアワティ

「にほんごきょうしつと出会い、今の私があります。」
私はインドネシアで出会った主人との結婚を機に、2006年に豊橋に来ました。日本語を初めて聞いたのは出国時のバリ空港のアナウンス。日本に来るのに不安はありませんでしたが、最初の頃は友達もなくてさみしくて泣くこともありました。

来日して3か月経った頃、豊橋市国際交流協会(TIA)で日本語の勉強ができることを知り、「にほんごきょうしつ」に通いはじめました。日本語を指導してくれた先生はやさしく、また、インドネシアから豊橋技術科学大学に来ている留学生の奥さんもいて様々な国籍の友達ことができました。外の世界での交流は楽しくて、妊娠しても産後3か月ほどで「にほんごきょうしつ」に復帰。全くの初心者だった私の日本語も徐々に上達し、自信もつきました。そして、「にほんごきょうしつ」に通ったことをきっかけに、私の世界はどんどん広がっていきました。

2011年、「にほんごきょうしつ」の友達からTIAの災害時通訳ボランティア制度があることを聞き、豊橋技術科学大学の留学生やその家族の中には日本語が話せない人も多くいることや、ここで学んだ知識は自分のためにもなると思いボランティアに登録しました。

2014年の春には、豊川市にある企業から依頼があり、工場で短期の通訳を始めました。また、夏には、受験した日本語能力試験2級に合格。秋には、友達からの推薦を受けてバイリンガルボランティアに登録し、豊橋市内の小中学校で外国人児童やその保護者の為に通訳をするようになりました。そして9月から、愛知県が日本に定住している外国人市民を対象に、東三河で初めて開講した「介護職員初任者研修科」の訓練コースを、好奇心もあって受講しました。最初はJICEに通い、介護で使う日本語や日本のビジネスマナーなどを勉強しました。そして、2015年1月からは、専門学校に通い、介護初任者研修課程の取得を目指して、介護の基礎的な知識を3か月間

勉強しました。

その研修の中で、私は特別養護老人ホームに実習に行きました。利用者の方は、認知症や妄想病など症状が重く、私にひどい言葉をかけてくる人もいて、最初はつらかったです。しかし、めげずに笑顔で声をかけ続けていたら、心を開いてくれるようになり、実習最終日には私のために泣いてくれて、とても嬉しかったです。介護は人と人との交流なので、国籍は関係ありません。介護業界は常に人手不足なので、ずっと仕事を続けられます。利用者の方はみんなかわいくて、守りたい存在になり、どんどん介護に心を惹かれるようになりました。今では、この業界でずっと働きたい、国家資格の介護福祉士の資格にも挑戦したいと思うようになりました。

2015年10月からは、週に3日間ホームヘルパーの仕事をしています。国家資格取得は言葉の面から難しいという声も聞きますが、目標までの道のりをいくつかに分けて、少しずつ達成していけば、いつかは目標にたどり着けると思っています。

また現在は、日本赤十字社愛知県支部から講習の際に赤十字社の指導員のサポートができる「赤



介護職員初任者研修課程修了証明書
を手に専門学校の先生と

十字指導員養成講習」受講の話をしていただいています。市内の小・中学校には外国人児童もたくさんいるため、通訳の面でも指導員をサポートでき、学んだ知識は介護の役にも立つのでこちらにもぜひ挑戦したいです。